

# 漢醫醫學の研究方法に関する考察（十九）

杜聽

# 第五方法 實驗治療篇

第五方法 實驗治療學  
的研究の續  
第一、內科學及治療學との關  
不十分なりしことは、治療學を輕んじて病理學的又は動物實驗方面に偏した國々に於て、痛切に叫ばれた。從來の

係。第二形式は治療學を内科與に包括して研究することである。最も普通の方法である。即ち從來の內科學は臨床病理學及治療學より成る。而して臨床病理學とは、病理解剖學の臨床的進展にして、更に機能的方面が附加して發達せるものにして、常に診斷に重きを以て居る。現今の内科學者は、般に此臨床病理學に全力を注ぎ、却て治療學を等閑視する傾向がある。之に關して板倉博士の論文中の一節を紹介すれば「治療上の能力が甚しく

不十分なりしことは、治療學を軽んじて病理學的又は動物實驗方面に偏った國々に於て、痛切に叫ばれた。從來の臨床醫學者は、專心病理解剖の剖檢所見に診斷を適合せしめんことのみに努力し、且つ病原體確認を診斷の第一義とした。而して甚しく稀有な疾患に非常な興味を持ち且つ又治療に關係なき診斷に多大の時間費し治療を論ずるに際しては藥名を列舉するに止むるか又は「治療法無し」の一言で終焉畢タリも起つた。従つて斯くの如き醫育で養成せらわれた醫師に治療能力の缺乏せりは當然であつた。英國衛生教育は當局の考ふる所に據れば「醫育を終り患者に接し診斷を下すも適當な處方を與ふる能力

# 歐洲文化の優越性

法學士  
林  
馨  
文

六

私が西歐文化の根底に優越性を認めるのは、實にその機械文明の岩疊なる地層を掘り下げて、西歐文化の深い根底に生命尊重、人生肯定の金剛石を見出したからである。ロンドンの霧の冬を抜け出で、クローカスを見出して春の豫感に浸つた私は西歐文化の產生出した機械文明を突き抜けて更に奥深く西歐文化の深處に人生尊重の聲を聞き、そこにるべき萌芽を發見したのである。

日本に大使として來た事のあるクローデル氏は言つた「今後百年間に日本は全く基督教化する。」私は今その言葉について文字上の吟味をじようとは思はない。けれども日本のみならず、全世界を聖化して西歐化の傾向に走つてゐるのは争ふべからざる事實である。生命的芽ばえを眞理の太陽がはぐくむ時、私達は所詮その成長を阻止する事は出来ない。私達はやがて來るべき人類全般の春を思ふて心躍らざるを得ないるのである。私達は詩人と共に「歌はざる間に雲雀を聞く」のである。

私がブラウニングの詩を頭に掲げたのは、私の西歐を醉を言はんが爲のPRELUDEではない。私は生命の尊重、

私は衷心より彼女の眞理に生きる所氣を讚美するまでである。私達は文化の指導原理が人生觀、宇宙觀である事を思はなくてはならない。確固たる人生觀、宇宙觀即ち生命尊重に基調を置く人生觀、宇宙觀なくして生じた文明の花は一陣の懷疑の風にも散つてしまふ果ないものである。人類社會進化説を信ずる人士にして往々人類社會は自然に、ひとでに進化し行くと淺薄な考を持つ者が少くない。事實

アト・シユ・ヴァイツァーの葉は確かに眞理である。

私達は歐洲の機械文明の所を糾撻する前に先づその明を生み出した歐洲人の人觀、宇宙觀を考察検點しなればならぬ。蓋し文化の表たる文明の種々相は時に順て變化するものであるから。一部の文明批評家達が歐文化を批評するに當つての文化の指導原理たる西歐の人生觀、宇宙觀を闇却して

前に先づ西歐文化の指導原理  
たる西歐人の人生觀、宇宙觀  
を批判する事に着手しなけれ  
ばならない。それによつて私  
達は始めて歐洲文化の價值を  
決定する事が出来るのだ！そ  
れと同時に私達は始めて基督  
教の人生觀、宇宙觀が文化の  
指導原理として普遍性の價值  
がある事を覺るのだ！

「文明」の著者ジヨルジュ・  
デユアメルは言つたう若し文  
化が人の心の中に存在しない  
ならば、それは何處にも存在  
しはしない。」と。人類が文化

と共に、人生の尊重を強調するものでなければならぬ。生尊重の意識は「生きる意志」の中にも含まれてゐる。したがつて「生きる意志」の中より人生尊重の意識を流露せしめる爲には私達は謙虚でなければならぬ。私達は眞摯でなければならぬ。眞摯に眞摯なる魂に始めて宇宙の秘密は啓示される。ドガル・キネは言ふ、「社會改造の原理は眞摯の一時間にある。」と。人類文化の創造は眞摯なる魂の中に實現さるべきものである。

科耳鼻咽喉 專門	何連養	臺北市永樂町二ノ二一八	臺灣醫學士	勸特廣閉 強別告業	新華靴店	高雄市鹽埕町二ノ九	原籍海北市花園町	長花ヶ建家テ 七尺幅四 寸五分以下各種	褚金枝商
-------------	-----	-------------	-------	--------------	------	-----------	----------	---------------------------	------

狹學を内科學に從屬し得ない事を次の如く論じて居られる。「治瘉學を内科學のうちには、非常に複雑なもので、内科學の意義とも關聯する。茲には内科診療の醫業上に於ける専門科名たる内科でなく、醫學に於ける内科を意味するこゝとして論じ後に醫業との關係の章に於て再述する。後の一貫の記述ご眞意に於て、一貫外觀を呈することに、特に注意を希ふ次第である。

内科學は治療學を包括するに最も至當なる觀を呈する。如何なる部門と雖も醫學に屬するものは申すに及ばず、他の科學ご雖も總べてを包括し得る包容力を有するものである。

理由は、次の三つである。  
第一は、内科學が臨床病廣汎な學科となつた爲で、其終局の目的たる治療に最も努力すべき筈である。内科學は常識的に觀察されば、其終局の目的たる治療の範圍で、甚だしく膨大な起り疾病の診斷に達するだけた。併し治療を行ふ爲には其病理を明らかにする必要の範圍で、既に存せざるに至た。斯くの如くして内科學は科學的に明確に表せば臨床理學であつて、これに附加て醫業としての治療を行ふ門となつたことは、世界各

以上のことは歐洲の識者の言の如く「各國の内科學教室より出づる論文の幾割が直接通歐治療を論ずるかを調べ、且つに於て何入と雖も否定されることは、思はれる。又我國に於て隨學部學生が治療能を發揮する度毎に一局拘意其希望に副はんと努めしに一層近し。上述の如き聲を聞き或は決議となつて表れしことを示すものに非ずや。私共に感する次第である。但し此現點は明治より大正十年頃に亘る東京帝國大學に於ける材料に基くものでないことを特に御断り致したい。

な發るのい攻めに、此方の研究題目は、既に從事する者には永遠に繼續する筈である。然るに、漸次解決に近づくに従事する者には、何が如なれば、疾患の本質を明確にし、此方の研究題目は、決して盡くる秋にならないからである。

得治む來なの持器すのな臨ごち學 が益てつ態あ  
影外城永  
工湖國一久不  
圓產產無二忘  
各珠二賄紀念  
諸種媒贈  
員海答品  
類金品

可舞座衛設宿劇場交  
容豪席生備舍場稅通  
千術門選完俱新低利  
名大羅玉全備樂廉使

高雄市本雅樂

代表者 孫兩和

芬洲劇場

鴻泉海產

高雄市鼓堤三二二〇

○承澤興木材店 明

台南市白金町  
新案持六簽製九許四ノノ九町  
機木各廠北新舊○材門賣  
機械木、堅阿里及  
形山、製造

[View Details](#)